

## 産業連関表の概念

経済を構成する各産業は、相互に結びつきながら生産活動を行っています。

ある一つの産業は、他の産業から原材料や燃料などを購入(投入)し、これを加工して製品を作り出しています。この製品は、家計などに販売(産出)するほか、他の産業へも販売され、新たに他の産業の生産活動のための原材料として利用されます。そして、こうした「投入 産出 投入 ……」を繰り返し最終的に、より加工性の高い製品として家計、政府、輸出などといった最終需要を満たすために販売されます。

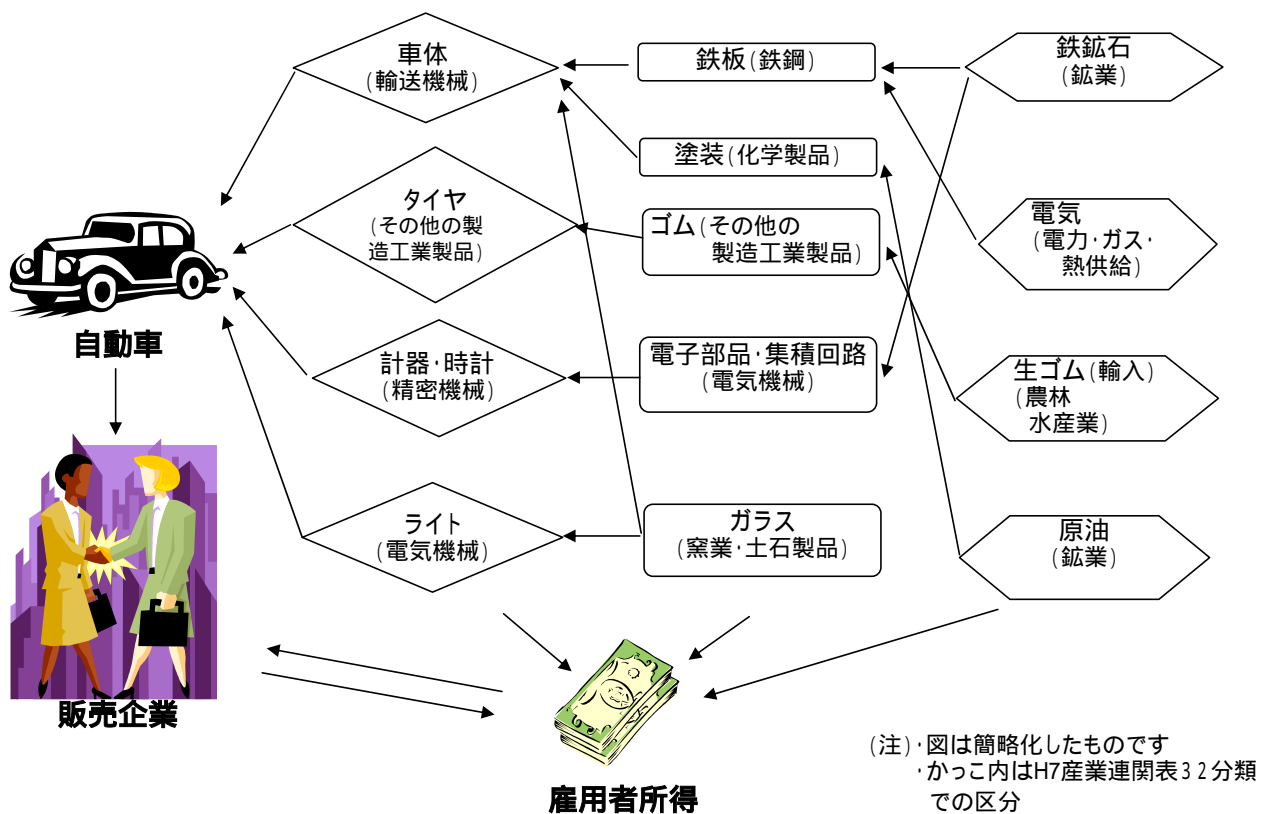
産業連関表は、このような財やサービスのやり取りの流れを、一定期間(通常一年間)に一定地域内について行列形式で一覧表にしたものです。

ちなみに英語では、産業連関表を“<sup>インプット</sup> INPUT - <sup>アウトプット</sup> OUTPUT <sup>テーブル</sup> TABLE”と呼び、日本では産業連関表の他に「<sup>アイオー</sup>I - O表」または「投入産出表」と呼ばれています。

### - 産業連関表のしくみ -

需要部門 (買い手)		中間需要					最終需要					(控除) 移輸入 C	県内生産額 A+B-C	
		1	2	3	・・・	計	家計外消費支出	民間消費支出	一般政府消費支出	県内総固定資本形成	在庫純増			移出
供給部門 (売り手)		農林水産業	鉱業	製造業										
中間投入	1 農林水産業													
	2 鉱業													
	3 製造業													
	計					D								
粗付加価値	家計外消費支出													
	雇用者所得													
	営業余剰													
	資本減耗引当													
	間接税金													
	(控除)補助金													
	計					E								
	県内生産額					D+E								

図1 自動車と他産業の関連



自動車を例に挙げると、自動車という製品を生産するためには車体、タイヤ、計器・時計、ライトなど多くの材料を必要とします。そして、それぞれの材料を生産するために鉄鋼石、電気、生ゴムなどの原料を使用することになります。また、それぞれの製品、材料、原料を輸送するために輸送機関も必要となります。

このように自動車はさまざまな産業間での「投入 産出 投入 …」の繰り返しの結果製造されているのがわかります。

つまり、自動車の需要が増加した場合、関連のあるさまざまな産業にも連鎖的に需要がおこることになります。この「**新たにある需要がおきたとき、経済全体ではどれくらいの需要がおこるか**」という見方が産業連関表を使用した生産波及効果分析の基本となります。

また、産業連関表を利用すると需要が増加し、各産業の生産額が増加した結果増加する付加価値額（GDP）、雇用者所得（給料等）を推計することもできます。